



ありがとう20年、これからも共に世界と

世界のこと、もっと知りたい!

# もしり

Moshiri

JICA北海道(帯広)ニュース

「もしり」とは、アイヌ語で大地の意味。北の大地から、国際協力の「今」を伝えます。



## 調査団は見た! パラグアイと北海道・十勝のつながり



「パラグアイ」と聞いて何を思い浮かべますか?パラグアイにはたくさんの日本人が移住しており、困難を重ねながら現在のくらしと地元からの信頼を築いてきたという歴史があります。現在、パラグアイに住んでいる約7,000人の日系人のうち、北海道からの移住者は約1割を占めています。今年は移住が始まってから80年という節目の年です。JICA北海道(帯広)は日本、そして北海道とパラグアイのつながりをよりいっそう強めるため、現在も様々な取り組みを行っています。今回は2016年2月下旬から2週間、十勝・帯広地域の関係者にJICA事業の理解を深めていただくための調査団をパラグアイに派遣しました。派遣中には十勝出身の日系人にも会うことができ、十勝で暮らしていた頃の思い出に触れる場面もありました。

### 草の根技術協力

帯広畜産大学との連携協定の下、2011年から大学の先生が主体となって農家や農協職員の酪農技術向上に取り組んでいます。その注目度の高さは、首都アスンシオンで行われた最終報告会に現地のテレビ局が訪れるほどです。



草の根技術協力の最終報告会の様子



草の根技術協力最終報告会には農畜省副大臣や上田大使も出席されました。

### ボランティアグループ派遣プロジェクト

帯広畜産大学との連携事業で、卒業生や学生が青年海外協力隊として現地の小規模酪農家の牛乳の生産性向上・品質改善に取り組むボランティアグループ派遣プロジェクトが実施されています。帰国後、ボランティアは日本や海外で活躍することが期待されます。



大学連携事業で派遣中のボランティア4名と対象県の県知事



大学連携事業で派遣中の宮崎杏花音さん

### 日系研修/日系社会青年ボランティアなど

JICAではこれまで各都道府県の協力を得ながら中南米への移住事業を行ってきましたが、現在では日系人を技術研修員として受け入れる日系研修や、日系社会で活動する日系社会青年ボランティア等により中南米の日系社会に対する支援事業を行っています。また、これまで十勝・帯広で行われた日系研修(畜産や食品加工)に参加した研修員や、北海道出身の日系社会青年ボランティアを通じ、北海道や十勝・帯広の技術がパラグアイの経済発展に貢献しています。



2009年に日系研修(食品加工技術)に参加した渡辺さんの取材



2000年に日系研修(流通・マーケティング)に参加した鬼塚さん(勤務先のラパス農協)

### 調査団参加者の声

(十勝毎日新聞社 政経部 記者 津田恭平さん)  
帯広畜産大学の学生たちが生き生きと活動している様子が印象的でした。言葉も文化も違う異国の地で、日本では経験できない濃い時間を過ごしていると感じました。パラグアイ関係者も支援に感謝しており、今後技術が根付いて発展していくことを期待します。

(帯広市 市民活動部 親善交流課 森の交流館・十勝 遠藤和麻さん)  
今回の訪問で、日本の知見や経験がどのように現地で浸透しているのか、また浸透させるためにどのような苦勞をされているのかなどについて目の当たりにすることができ、貴重な経験になりました。また、パラグアイという国の魅力についても感じることができました。





JICA北海道(帯広)では、開発途上国から来た多くの研修員が、自国で必要とされている知識や技術を学んでいます。

### ケニアからやって来たローズさん



持続的農業生産と環境保全のための  
土壌診断技術コース

■名前:ローズさん  
■出身:ケニア共和国



Mbuya ore (マブヤ オレ)  
(ケニアの言葉、キシー語で“こんにちは”)

#### Q1 ケニアってどんな国?

東アフリカに位置する国で、自然公園などの観光業や、紅茶、コーヒー、花栽培はじめ農業が盛んです。私は国で農業技術の指導をしています。

#### Q2 日本に研修に来た目的は?

ケニアの多くの農家の人々は、農業の正しい使い方や肥料の作り方を知りません。今回の研修を通じて日本の進んだ技術を母国の人々に伝えたいです。

#### Q3 日本人の印象はいかがですか?

日本人は、1分の時間を惜しみ一生懸命働いていますね。勤勉で教育が進んでいて、そして私たちのような外国人にとっても親切に接してくれます。

### ケニアでTICADⅥ開催!

#### -TICAD(ティカッド)ってなに?-

TICADはアフリカの開発について議論する国際会議です。1993年に始まり、日本、国連、UNDP、世界銀行、アフリカ連合委員会(AUC)と共同で、これまで5回開催されて来ました。アフリカ開発に関わる国際機関、民間企業、市民社会も参加するオープンなフォーラムです。最新のアフリカ情報をニュースや新聞でぜひチェックしてください!

### ~JICA研修を支えてくださっている方をご紹介します~

コース名:  
持続的農業生産と環境保全のための  
土壌診断技術

コースリーダー:  
帯広畜産大学  
教授 谷 昌幸 さん



土壌の化学性分析の一コマ。多くの学生が手伝ってくれるおかげで、少し難しい分析操作もバッチリ覚えてもらいます。

#### Q1 国際協力(JICA研修事業)に携わるようになったきっかけを教えてください。

私が帯広畜産大学に着任した1995年には、すでにJICA集団研修「土壌分析・改良コース」が7年目を迎えていました。着任してすぐに土壌の化学性分析に携わり、それ以来、土壌関連コースと21年間のご縁が続いています。

#### Q2 JICA研修に対してどのような想いでご協力いただいていますか?

日本の技術をただ伝えるのではなく、研修員に原理原則を理解してもらい、かつ学んだ知識を自国で活用してもらうことを第一に考えています。研修に協力してくれる学生たちを巻き込んでのBBQや花火など、ちょいと弾ける交流も必修です。

#### Q3 思い出に残っている研修員とのエピソードを教えてください。

2004年「土壌の診断と保全コース」に、アベルさんという40歳の研修員がマダガスカルから参加していました。当時の私は36歳。アベルさんが私の顔を眺めながら一言「私の弟に本当にそっくりだ」と...まだ行ったことがないマダガスカルが第二の故郷になりました。



毎年恒例のBBQや花火を思いっきり楽しんだ後の一コマ。研修員、学生、そして教員たちが驚くほど仲良くなります。

### ボランティアの現場から

### 青年海外協力隊



郡山 彩さん

派遣国:ベナン共和国  
出身:帯広市  
職種:コミュニティ開発  
派遣期間:2015年3月~2017年3月  
活動内容:首都から430Km離れた村で、地域の強みであり暮らしの下支えとなる自治力の強化に取り組んでいる。



子供たちと。お祭り用に仕立てたお揃いの服。左がナイマ

### ベナンのスローライフ

5月5日、日本はこの日の日。いつもお世話になっている大家族に鶏を一羽持って遊びにいくと...今日は末っ子ナイマの2歳の誕生日。一緒にベナンの伝統料理「イカカト」を作ることに。玉葱・にんにく・ピーナッツ・ごま・生姜・唐辛子などを一気にすりつぶし、トマトペーストとバーム油で煮込みます。程よい辛さでピーナッツの旨味が美味しいこのソースは、例えるなら担々麺スープ。とうきびの粉を水と練ったバットや、ヤムイモを餅のようについたイナムピレと一緒にいただきます。鶏肉も加えグツグツ煮込んでいると、クチュリエ(仕立て屋)であるナイマのママにお客様。ベナンでは、仕立屋に布を持って行って形を選ぶオーダーメイドが主流です。「...脱げない!」「どれっ!(力づくで引張る)」と、なにやら楽しそう。カタカタカタカタ...足踏みミシンの音が心地よいのどかな昼下がり。生活と仕事ははっきりと分かれていないこの感じに、心がホッとするベナンの日々です。さて、ごはんは何時に食べられるかな~?



イカカトは現地のアニ語でピーナッツソースの意味



石をすりあわせて食材をすりつぶします。ベナン家庭の必需品